

有機農業技術のつぼ

作物名	トマト
対応技術の項目	その他
	栽培改善法
	単為結果性品種の導入

《情報収集先の経営概要等》

当麻町 菅野 昌寛 経験年数18年（うち有機年数18年）

経営耕地面積 3.0 ha（全面有機）

水稲	0.8 ha	かぼちゃ	0.6 ha
スイートコーン	0.9 ha	トマト	0.1 ha
たまねぎ	0.6 ha	きゅうり	0.02ha

労働力 家族2人

有機JAS認定の取得状況 平成23年取得

問題点

トマトの着果が安定しなかった

- トマトの着果促進として使われているホルモン処理は、有機栽培では使用できない。
- セイヨウオオマルハナバチは、施設外に逃げ出した場合の環境への影響を考え控えていた。

対応

単為結果性品種を導入した

つぼ

- 単為結果性のトマト品種「パルト」を導入した。

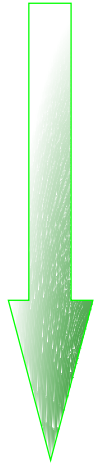
※「単為結果性」とは、

受粉が行われなくても果実になる性質のこと。

施設栽培のトマトの場合、通常、ホルモン処理やマルハナバチを使って着果を促すが、単為結果性品種の場合、このような処理がなくても着果する。



トマトハウス全景



単為結果性トマト「パルト」の着果状況

※ 草勢が急激に衰えることがあるため、早めの追肥等により草勢の維持に心がけている。

※ **対応技術活用上の注意点**

- ・ 単為結果性品種は着果が良いため、草勢の維持がポイントとなる。着果が多い場合は、草勢に応じて摘果も必要である。

成 果

安定的に着果するようになり収量が向上した

□ 収 量	導入前	4 t /10a	→	導入後	6 t /10a
	4果以上着果花房率	導入前 4割	→	導入後 6割	